

まえがき

心配事があると、床に就いてもよく眠れません。怒りや悲しみや後悔の思いがあるときも同様で、眠りは浅く、夜中に目覚めたりもします。熟睡できないと、日中は頭が重く、気だるくてシャキッとしません。

現代の日本人の多くが、そんな睡眠不足に似たような状態で、日々の生活を営んではいないでしょうか。得体の知れない閉塞感が世の中を覆い、地に足が着かないまま、毎日があわただしく過ぎていくようです。

たった一度の自分の人生を、確かな足取りで歩んでいるという実感が、乏しくなつてはいないでしょうか。身の回りに難題が発生すると、たちまち狼狽うろたえてしまいませんか。現代人の生きる力、いや、生きぬく力が、いつしか弱まってしまったように思われます。

理由を探れば、いくつも見つかるでしょう。昭和の大戦で敗戦国となった日本には、過去を否定する空気が充満してきました。国際社会でも出る杭は打たれるとばかり、日本バッシングがしばしば起きてきました。近隣国との関係も、なかなかうまくいきません。

飛躍的な経済発展を遂げた頃は活気にあふれていたものの、バブル経済が崩壊してからは、長い長い低迷が続きました。安定した企業が少なくなり、雇用形態は昔と違い、リストラの不安がつきまといまいます。若者たちの雇用も依然として改善されていません。

国民の多くが家族や家庭を大事に思いながら、いざ自分の家庭で問題が発生すると、解決の手段がなかなか見出せません。晩婚化・非婚化がひろがり、日本の急激な人口減少は確実だと報じられると、暗澹たる気分になり落ち込んでしまいます。

しかし歴史をふり返ると、世の中が安定していた時期など、めったにありませんでした。人類の歴史は戦乱つづきでした。日本の江戸時代のように、比較的平穏な社会が二百五十年以上もつづいたのは、例外中の例外です。たとえば世の中が平穏無事で

あつても、個々の生活で苦勞がなかったわけではありません。

ですから今日の時代が特別に重苦しく、多難なわけではないのです。禍福はあざなえる縄のごとし。慶事もあれば、凶事も起きます。

ただし、今わたしたちは大きな文明の変動期を生きているため、たくましく生きぬく力を身につけていないと、早い変化についていけなかったり、押しつぶされてしまいかねない、とは言えるでしょう。

三部から成るこの本は、生きぬく力を養いたいと願い、自分の人生に真摯に向き合おうとしている人を想定して綴ったものです。

第一部では、九十歳を過ぎてなお、自ら描く理想に向かって歩みつづけた（つづけている）お二人を採り上げます。どちらも筆者がその聲咳に接し、尊敬している方々ですが、そうしたたくましい高齢者は世に少なくありません。筆者の所属する一般社団法人倫理研究所の月刊誌『新世』にも「氣と骨」のシリーズとして、毎回、素晴らしい生き方を示す高齢者が採り上げられています。

人はそれぞれに、生まれ育ちも、選んだ仕事も、発揮する能力も、感じ方や考え方も違っています。遺伝子のレベルで見れば、誰もが同じでありながら、生まれてからの人生はまったく異なっています。生きぬく力がたくましいか、そうでもないかの違いは、どこにあるのでしょうか。お二人の人物と足跡から、ヒントを何か見つけていただけたらと思います。

第二部は、筆者がここ数年『新世』誌の巻頭言に書いたものから、本書のテーマにつながるものを選んで、若干の加筆補正を加えて構成しました。それら十八の短文は、内容的に前著『実践のヒント』や『今日もきつといいことがある』（どちらも新世書房刊）に連なるものです。

第三部は、筆者が二人の若者と対話する形式で書き下ろしてみました。不可解なことの多い現代社会を見つめながら、とくに「自由」の問題をテーマにしています。自由が格別に尊重される世の中では、歪められた自由が横行しがちです。そのため却って不自由になり、生きぬく力が損なわれてしまっているのではないのでしょうか。そのほか、読者の皆さんと一緒に考えたいテーマを、いろいろと提示しています。

二〇一三年の日本では、伊勢の神宮と出雲大社のご遷宮がその年に重なるという、歴史上では四度目の慶事がありました。伊勢の外宮の遷御の儀からちようど一年後となる二〇一四年十月五日には、高円宮典子内親王と、出雲大社宮司のご長男である千家国麿氏のご成婚の儀が執り行われました。

民族の神話が今もお息づいている日本が、新たな歴史を刻んでいく準備が整ったように感じたのは、筆者一人ではないでしょう。是非そうありたいものです。そのためにも、国民一人ひとりがたくましく生きぬく力を養わねばならないと、切に思うこの頃です。

平成二十七年一月

筆者

まえがき……1

第一部

たくましい先達の生き方に学ぶ

やればできないことはない——遠山正瑛の気骨

1. 「地球倫理」の森を創る……10
 2. 気骨あふれる農学者……18
 3. 恩格貝の奇跡……31
 4. 信念と理想に生きる……37
 5. 「愚公」のごとく……44
- 音楽は勇気を与える——ルース・スレンチェンスカの情熱
1. わがピアノ体験……61

第一部

生きぬく力を養うヒント

- | | | |
|------|----------------|-----|
| 2. | 伝説のピアニストを知る…… | 67 |
| 3. | よみがえった巨匠…… | 75 |
| 4. | 醍醐桜の奇跡…… | 82 |
| 5. | 幻の巨匠に魅せられて…… | 87 |
| 6. | 霊峰富士への奉納演奏…… | 91 |
| 〔1〕 | ああ、おもしろいな…… | 104 |
| 〔3〕 | 人生も塩加減…… | 112 |
| 〔5〕 | 一貫して怠らず…… | 122 |
| 〔7〕 | 小さなチャレンジ…… | 131 |
| 〔9〕 | 一歩ずつ登る…… | 139 |
| 〔11〕 | 「生涯青春」の心意気…… | 149 |
| 〔2〕 | あきらめない…… | 108 |
| 〔4〕 | 信じて受け入れる…… | 117 |
| 〔6〕 | わからないからおもしろい…… | 126 |
| 〔8〕 | 「時の力」を意識して歩む…… | 135 |
| 〔10〕 | 絶対受容の構え…… | 144 |
| 〔12〕 | 「喜ぶ」という才能…… | 154 |

[13] 真つ直ぐに生きる	158	[14] 澄んだ心で見つめる	163
[15] 心の儉約	167	[16] 心の根をはぐくむ	172
[17] 思考停止から抜け出そう	176	[18] よみがえるいのちの輝き	180

第三部

激変する時代をどう生きるか

——「自由」をめぐる若者との対話

非常時における「つながり」の再発見	186	人を殺す自由はあるのか	192
近代文明について考える	197	迷惑をかけなければいいのか	207
行き詰まるグローバル資本主義	211	日本の人口激減	228
自由と規範をめぐる問題	236		

あとがき……………259